

(様式第9)

旭医大第1276号
平成23年10月4日

北海道厚生局長 殿

開設者名 国立大学法人旭川医科大学
学長 吉田 晃 敏

旭川医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	63.83 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	179人	150人	302.0人	看護補助者	45人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	5人	9.0人	理学療法士	6人	臨床検査技師	44人
薬剤師	24人	8人	32.0人	作業療法士	0人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	10人	その他	0人
助産師	17人	1人	17.77人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	541人	66人	589.8人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	7人
歯科衛生士	0人	1人	1.0人	歯科技工士	2人	事務職員	85人
管理栄養士	4人	4人	8.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	33人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	464.7人	5.7人	470.4人
1日当たり平均外来患者数	1,440.6人	43.0人	1,483.6人
1日当たり平均調剤数	1,103 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	4人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	0人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 早期大腸がん(2cm以上の病変)に対して、内視鏡にて病変周囲の粘膜を切開し一括切除する。			
医療技術名	IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 C型慢性肝炎に対し、遺伝子多型を同定し治療効果予測を行う。			
医療技術名	内視鏡下頸部腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 頸部腫瘍に対して、内視鏡補助下において摘出する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	68人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	30人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	27人	・原発性胆汁性肝硬変	46人
・全身性エリテマトーデス	212人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	39人
・再生不良性貧血	11人	・混合性結合組織病	15人
・サルコイドーシス	85人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	156人	・網膜色素変性症	29人
・特発性血小板減少性紫斑病	25人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	39人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	208人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	45人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	12人	・慢性血栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	34人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	140人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	78人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・後縦靭帯骨化症	45人	・肥大型心筋症	16人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	3人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	17人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	39人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	15人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	10人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・強度変調放射線治療	・
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の 同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した 症例検討会の開催頻度	16回
部 検 の 状 況	部検症例数 22例 / 部検率 10.00%

1 研究費補助等の実績

通番	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元名	備考
1	北海道臨床開発機構の組織的・機能的充実等	吉田 晃敏	学長	21,198	文部科学省研究振興局	
2	Telmedicineを用いた遠隔医療の研究	吉田 晃敏	学長	1,500	独)国立成育医療研究センター	
3	熱ショック蛋白と酸化的DNA塩基損傷修復による心血管リモデリング抑制の研究	長谷部 直幸	第一内科	1,170	科学研究費補助金	
4	障害血管リモデリングおよび血管外膜微小血管新生における神経再生因子の役割	川辺 淳一	第一内科	3,120	科学研究費補助金	
5	標準化研究支援プログラム(心臓)心臓病の代償療法としての心臓神経細胞移植と人工心臓の開発(併用治法)	竹原 有史	第一内科	5,000	文部科学省研究振興局	
6	心臓再生医療におけるヒト心臓神経細胞移植ハイブリッド治療法の開発	竹原 有史	第一内科	1,300	独)科学技術振興機構	
7	心臓再生医療におけるヒト心臓神経細胞移植ハイブリッド治療法の開発(併用治法)	竹内 利治	第一内科	0	財)循環器病研究振興財団	継続
8	腎不全病態における血管内皮前駆細胞の役割解明と高機能内皮前駆細胞導入の効果	中川 直樹	第一内科	1,040	科学研究費補助金	
9	ARBとカルシウム拮抗薬の併用によるアルブミン尿減少効果	中川 直樹	第一内科	300	財団法人 伊藤医薬学術交流財団	
10	アディポネクチンの肺転移抑制効果の検証	豊嶋 憲理	第一内科	1,560	科学研究費補助金	
11	関筋リウマチにおける血管新生・低酸素応答性転写因子の意義解明と新規治療法開発	岡本 健作	第二内科	2,080	科学研究費補助金	
12	低酸素応答装置による免疫細胞機能調節機構の解明と新規抗炎症療法開発	牧野 雄一	第二内科	1,040	科学研究費補助金	
13	マイクログリナによるNF-κB制御を介した関筋リウマチ治療戦略に関する研究	平野 史倫	第二内科	2,600	科学研究費補助金	
14	新しい診断手法の肝臓検査への応用とこれを用いた肝臓検査の臓器組織に対する生理活性の解明と健康食品開発	麻生 和信	第二内科	70	NPO法人 日肝がん臨床研究機構	継続
15	地域イノベーション推進プログラムの活用とこれを用いた肝臓検査の臓器組織に対する生理活性の解明と健康食品開発	高後 裕	第三内科	13,000	財)北海道科学技術総合振興センター	
16	肝臓がん診断手法の肝臓検査への応用とこれを用いた肝臓検査の臓器組織に対する生理活性の解明と健康食品開発	高後 裕	第三内科	210	特非 日本がん臨床試験推進機構	継続
17	ヘモクロマトーシスの実態調査と診断基準作成	高後 裕	第三内科	13,000	厚生労働科学研究費補助金	
18	炎症性腸疾患バイオフィルム微生物由来活性物質を介した粘膜保護作用の解析とその制御	高後 裕	第三内科	9,100	科学研究費補助金	
19	OCTNで取り込まれる新規細菌活性物質の腸上皮細胞内動態とMDR1による排出障害	藤谷 幹浩	第三内科	1,690	科学研究費補助金	
20	ヘプシン発現調節における生体内鉄感知機構の解明	生田 克哉	第三内科	650	科学研究費補助金	
21	鉄過剰モデルマウスにおける瀉血および鉄キレート療法による鉄代謝関連分子変化の検討	細木 卓明	第三内科	650	科学研究費補助金	
22	慢性肝障害と鉄代謝調節異常の病態オーバーラップの分子メカニズム解析	大竹 孝明	第三内科	910	科学研究費補助金	
23	腫瘍一腫瘍血管を標的とした熱ショック蛋白・樹状細胞治療による白血病免疫回避の克服	佐藤 一也	第三内科	780	科学研究費補助金	
24	高周波微細血流イメージングによる肝癌新生血管形成のメカニズムの解明	鈴木 康秋	第三内科	910	科学研究費補助金	
25	脾がん自然発症マウスにおける「骨髄攪乱」を介した悪性化機構の解明とその制御	水上 裕輔	第三内科	1,690	科学研究費補助金	
26	炎症性腸疾患における小腸分子シヤペロン異常の解明	伊藤 真博	第三内科	650	科学研究費補助金	
27	新しい診断手法の肝臓検査への応用とこれを用いた肝臓検査の臓器組織に対する生理活性の解明と健康食品開発	鈴木 康秋	第三内科	0	NPO法人 日肝がん臨床研究機構	継続
28	パレット食道および食道癌における新しい分子マーカーの同定と新規治療法の開発	盛一 健太郎	第三内科	1,560	科学研究費補助金	
29	Hedgehogによる膵癌の血管新生抑制	杉山 祥晃	第三内科	200	財団法人 伊藤医薬学術交流財団	
30	腸管上皮細胞を標的とした新規ディフェンシン・テリパリーシスシステムの開発	石川 千里	第三内科	650	科学研究費補助金	
31	副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	梶野 浩樹	小児科	34,500	厚生労働科学研究費補助金	
32	Ellis-van Creveld症候群の疫学調査と治療指針作成	梶野 浩樹	小児科	15,000	厚生労働科学研究費補助金	
33	発達脳に及ぼすてんかん発作の影響一皮質形成異常を有するモデル動物を用いた研究一	高橋 悟	小児科	1,950	科学研究費補助金	
34	てんかん発作を有するモデル動物を用いた研究一皮質形成異常を有するモデル動物を用いた研究一	古谷野 伸	小児科	23,958	厚生労働科学研究費補助金	
35	GnRHニューモロンにおける思春期発来調節因子の新規機能解析と時間生理学的研究	棚橋 祐典	小児科	3,120	科学研究費補助金	
36	高カルシウム血症と腎石形成を伴う家族性低マグネシウム血症(FHNC)の全国実態調査と診断指針作成	棚橋 祐典	小児科	13,500	厚生労働科学研究費補助金	
37	新生児糖尿病の網羅的な病因・病態の解明と分子診断アルゴリズムの作成	鈴木 滋	小児科	1,430	科学研究費補助金	

1 研究費補助等の実績

通番	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元名	備考
38	原発性リンパ腫全国調査を基礎とした治療指針の作成研究	世嶋 唯博	第一外科	14,500	厚生労働科学研究費補助金	
39	静脈グラフト内膜肥厚発生機序の解明	内田 恒	第一外科	1,430	科学研究費補助金	
40	新規内因性血管、リンパ管新生制御因子の発現、転移に関する機能解析	齊藤 幸裕	第一外科	1,950	科学研究費補助金	
41	初期IS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法-CP-111単剤療法 vs IS-1+CP-111(併用)化学療法の療効比較試験(Ⅰ/Ⅱ相臨床試験)-	星 智和	第二外科	420	特非 日本がん臨床試験推進機構	継続
42	大建中湯によるクロロン病腸管再手術率低下を目的とした基礎的研究	河野 透	第二外科	1,690	科学研究費補助金	
43	「StageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第Ⅲ相臨床試験	河野 透	第二外科	105	財)先端医療振興財団	継続
44	「StageⅡ大腸癌における分子生物・病理学的マーカーによる再発high-risk群とフッピロリジン感受性群の選別に関する研究」	河野 透	第二外科	0	財)先端医療振興財団	継続
45	StageⅡ大腸癌術後再発予防に関する術後補助化学療法としてOPF(Laurovorin)療法とIS-1療法の異なる術後補助化学療法による再発率低下に関するコホート研究(研究種別:B-CAS)	河野 透	第二外科	0	財)先端医療振興財団	継続
46	「治療効果検証(StageⅡ)」を対象としたフッピロリジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究(研究種別:B-CAS)	河野 透	第二外科	73	財)先端医療振興財団	
47	選択的骨髄細胞移植の効果に関する基礎的検討	稲垣 光裕	第二外科	910	科学研究費補助金	
48	橋渡し研究支援プログラムにおけるむすびのない人工関節間接へのブルークスルー」口	松野 丈夫	整形外科	2,741	文部科学省研究振興局	
49	人工関節周囲骨融解、骨吸収に関与するNFATに関する研究	山中 康裕	整形外科	650	科学研究費補助金	
50	股関節包と股関節腔の関節軟骨保護機能に関する生体力学的研究	伊藤 浩	整形外科	1,300	科学研究費補助金	
51	乾燥表皮における細胞内情報伝達機構を介する増殖と分化制御の研究	飯塚 一	皮膚科	3,900	科学研究費補助金	
52	角化異常症の病態解明	山本 明美	皮膚科	1,040	科学研究費補助金	
53	皮膚自然免疫機構からみた掌蹠膿疱症の発症機序に関する研究	村上 正基	皮膚科	1,690	科学研究費補助金	
54	ラット下部尿路閉塞モデルに対する抗血小板剤の膀胱血流および膀胱機能保護効果	松本 成史	腎泌尿器外科	1,950	科学研究費補助金	
55	2型糖尿病患者の網膜循環へのアディポサイトカインの影響と集学的な網膜症治療法確立	長岡 泰司	眼科	1,690	科学研究費補助金	
56	網膜グリア細胞及び脂肪幹細胞を用いた新しい網膜移植治療の開発	高宮 央	眼科	910	科学研究費補助金	
57	DM患者のペントトンジンと網膜循環	佐藤 栄一	眼科	200	財団法人 伊藤医学芸術交流財団	
58	糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術の眼循環測定による治療効果判定の検討	高橋 淳士	眼科	1,820	科学研究費補助金	
59	鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるEBウイルス標的療法に向けた基礎的研究	原淵 保明	耳鼻咽喉科	4,680	科学研究費補助金	
60	鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるEBウイルス膜蛋白の制御機構と機能解析	高原 幹	耳鼻咽喉科	2,080	科学研究費補助金	
61	扁桃腺癌の病態解明と扁桃摘出術の有効性の予測法の開発	岸部 幹	耳鼻咽喉科	650	科学研究費補助金	
62	高分子黒色腫抗原を標的とした頭頸部扁平上皮癌に対する抗体療法の研究	片山 昭公	耳鼻咽喉科	1,300	科学研究費補助金	
63	ヒト無精子症関連遺伝子の網羅的解析	千石 一雄	産婦人科	910	科学研究費補助金	
64	不妊症患者の妻と生殖補助医療技術による妊孕性の向上に関する研究	千石 一雄	産婦人科	802	北海道知事	
65	平成22年度子どもと健康と環境に関する全国調査北海道ユニットセンター委託業務	千石 一雄	産婦人科	15,964	国立大学法人北海道大学	
66	ヒト男性不妊症と習慣流産の病態解明およびその臨床医学への応用	宮本 敏伸	産婦人科	2,210	科学研究費補助金	
67	生殖細胞特異的発現遺伝子GC-LRRファミリーの機能解析	堀川 道晴	産婦人科	1,950	科学研究費補助金	
68	1.5テスラ核磁気共鳴装置を用いた人膝関節軟骨のt2値計測に関する研究	福岡 努	放射線科	1,040	科学研究費補助金	
69	妊娠に伴う内因性鎮痛機序の薬理的、電気生理学的検証と臨床応用への検討	岩崎 寛	麻酔科蘇生科	780	科学研究費補助金	
70	デクスメタドミジン血中濃度測定法の確立	黒澤 温	麻酔科蘇生科	260	科学研究費補助金	
71	血管リモデリング形成における内因性プロスタノイドの役割解明	高畑 治	麻酔科蘇生科	1,040	科学研究費補助金	
72	麻酔薬ブレコンデンシヨニウム作用のミトコンドリアイオンチャネルに与える影響	丹保 亜希仁	麻酔科蘇生科	1,300	科学研究費補助金	
73	皮膚電位、機能画像融合による表情認知ネットワークの解明	鎌田 恭輔	脳神経外科	3,380	科学研究費補助金	
74	皮膚電位時間一周波数/相関解析による脳機能ネットワーク融合との融合	鎌田 恭輔	脳神経外科	4,160	科学研究費補助金	

1 研究費補助等の実績

通番	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元名	備考
75	脳機能画像と多チャネルelectrocorticogram融合による言語機能関連BMIの開発	鎌田 恭輔	脳神経外科	24,700	委 独) 科学技術振興機構	
76	HGFがヒト髄膜細胞のMMP-9発現に及ぼす影響～出血後水頭症の治療開発に向けて	岡本 年男	周産母子センター	1,430	補 科学研究費補助金	
77	新規の抗パーキンソン病作用を有するオキシカム系骨格医薬品の開発	田崎 嘉一	薬利部	1,300	補 科学研究費補助金	
78	吸入麻酔薬が心リズムとイオンチャネルに及ぼす影響に関する基礎的研究	鈴木 昭広	救急科	390	補 科学研究費補助金	
79	PPAR γ ligandによる膵癌に対する抗腫瘍効果～血管新生関連分子発現の解析～	奥村 利勝	総合診療部	2,860	補 科学研究費補助金	
80	骨髄異形成症候群のミトコンドリア内鉄沈着に關与する鉄トランスポーター分子の同定	鳥本 悦宏	腫瘍センター	910	補 科学研究費補助金	
81	胎児グルココルチコイド暴露が胎児発育と新生児期に及ぼす影響に関する研究	長屋 建	周産母子センター	1,560	補 科学研究費補助金	
82	骨髄由来血管内皮前駆細胞の制御によるがん治療の検討	大崎 能伸	呼吸器センター	260	補 科学研究費補助金	
83	非小細胞肺癌Stage IIIb/IV期に対するGDP+TS-1療法とGDP+Docetaxel療法を比較する第Ⅲ相ランダム化比較試験	大崎 能伸	呼吸器センター	0	委 特非 東京がん化学療法研究会	継続
84	化学療法未実行IIIB/IV期・後継再発肺腺癌上肢癌に対するタキサンチン・ドセタキセル併用療法とシタキセル併用療法とシタキセル併用療法とシタキセル併用療法を比較するII相臨床試験 (JCO9209L)	大崎 能伸	呼吸器センター	630	委 特非 西日本がん研究機構西	継続
85	進行再発肺腺癌におけるゲフィチニブとエルロチニブのランダム化第Ⅲ相試験 (WJ065108L)	大崎 能伸	呼吸器センター	0	委 特非 西日本がん研究機構西	継続
86	エイズ診療向上に関する調査研究	大崎 能伸	呼吸器センター	4,096	委 北海道知事	
87	転移再発乳がんに対するタキサン系薬剤とティエースワンのランダム化比較試験	大崎 能伸	呼吸器センター	0	委 特非) 西日本がん研究機構	
88	転移再発乳がんに対するタキサン系薬剤とティエースワンのランダム化比較試験	北田 正博	呼吸器センター	0	委 財)パブリックヘルスリサーチセンター	継続
89	表皮創傷治療におけるカリクレイン8の機能解析	岸部 麻里	皮膚科・形成外科	2,470	補 科学研究費補助金	
90	腫瘍切除後の補助化学療法における塩酸ゲムシタピン療法とS-1療法との第3相比較試験 (JASPA001)	紀野 修一	臨床検査・輸血部	105	委 財) しずおか産業創造機構	継続
91	肺高血圧の進行度とボセentanによる肺血管リモデリング抑制作用の他覚的評価法の開発	杉本 昌也	集中治療部	1,170	補 科学研究費補助金	
92	骨髄由来血管内皮前駆細胞に關するプロスタノイドの包括的役割解明	岡田 基	集中治療部	1,820	補 科学研究費補助金	

小計20件
合計92件

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 松野丈夫
管理担当者氏名	総務課長 山内一昭、会計課長 今田敏文、経営企画課長 高見澤昭彦 医療支援課長 成田昭夫、薬剤部長 松原和夫

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院事務部 医療支援課 経営企画課 薬剤部	コンピューターによる集中管理を行っている。 カルテ等病歴資料、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は分冊になっているが1患者単位での管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部総務課	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務部総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務部総務課 病院事務部経営企画課	
	閲覧実績	病院事務部経営企画課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部経営企画課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部経営企画課	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務部総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務部総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務部総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部医療支援課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務部会計課	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 高橋昭二
閲覧担当者氏名	経営企画課長 高見澤昭彦
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	69.1 %	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	10,115人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	5,374人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,114人	
	D: 初診の患者の数	18,643人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
・ 指針の主な内容： (1) 安全管理の基本理念 (2) 安全管理組織体制の整備 (3) 部門の長の管理責任の明確化 (4) 診療マニュアルの活用(本編・携帯ポケットマニュアル) (5) インシデントと医療事故の用語の定義 (6) インシデント報告体制 (7) 医療事故発生時の対応 (8) 医療関連死・C P A-O A 症例の剖検に関する指針 (9) 医療相談窓口の設置 (10) 本指針改正の定義	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： (1) 医療事故防止対策の検討及び推進 (2) 医療事故防止の啓発活動(講演会等の企画立案を含む) (3) インシデント報告の調査及び分析を行い、その改善策を講じ、改善事項・周知事項の周知徹底を図る (4) 医療事故防止対策マニュアルの見直し (5) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 5 回
・ 研修の主な内容： 初任者研修(新規採用研修医・看護師)、新規採用医師・中途採用者の教育(看護師、事務職員、コ・メディカル)、ME 機器セミナー(輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・人工呼吸器他：全 4 回)、輸血実施手順講習会(2 回)、救急セミナー、糖尿病セミナー(2 回)、緩和セミナー(2 回)、初期研修医対象セミナー(中心静脈カテーテル) 院内講師・外部講師による講演会、各部門における安全の取り組み報告会&ポスターセッション(2 日間：内容別)、e-ラーニングで学ぶ医療安全	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	(有) 無
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 「医療安全ポケットマニュアル(第 3 版)」発行 (2) R M 全体会議で「髄液ドレナージ回路取扱注意」について説明 (3) 「休日に医師が血液型を誤って発注した事例」から、休日の輸血の発注・受領・出庫登録を当直臨床検査技師が担当することとした。 (4) 「薬剤の血管外漏出時のケア」と「温罨法の安全使用」について全体会議で説明するとともに各 R M へメールで注意喚起した。 (5) 放射線管理区域の機器作業マニュアルを作成した。 (6) 他科受診の用紙にインプリントする欄を設けた。 (7) F D A が実施した試験方法で「コアリング」の発生率が確認されたため対象製品を回収した。 (8) 院内の低床ベッドについて、中継ボックスを点検し緩みのあるものを修理した。 (9) 洗面所の棚とベッドネームのケース横に番号を入れ、個別表示することとした。 (10) クリニカルパス・手術の説明書に禁煙についての説明と必要性について記載した。 (11) R M ニュースで器材セット返却について、事故発生の予防と安全対策を周知した。 (12) 院内の各部署に配置されている「救急カート」の器材について整理した。 (13) ミルク管理、業務手順を明記し収納場所に添付した。 (14) 救急時の口頭指示で注射器に直接マジック薬剤名を書いていたものを「無地のメディラベル」を使用し、より分かりやすくした。 (15) 時間指定がなく、習慣的な滴下時間のある点滴をいつもより早く投与した事例から、時間指示の入力の徹底と、また特定薬剤の滴下時間を処置台に貼りだした。 (16) 輸血に関する事例から、交差適合確認済みかどうか判断できるよう、専用バックに保管することとした。 (17) 肺塞栓対応チームの目的、連絡先等について、各スタッフへ再周知した。 (18) マルクシン不良によるインシデントの発生から、他施設の状況を調査しディズボ化について該当委員会へ要請した。	

(19) 輸液ポンプ操作知識不足のため発生した事例から、臨床工学士による学習会を開催した。 (20) 持参薬の鎮痛薬重複投与の事例から、「頓用指示票」を使いやすく重複が一目で分かるよう改良した。 (21) 自宅での内服薬の自己管理に関する事例から、患者個人の内服薬の指導内容への理解度を経時的にわかるよう確認表を作成した。 (22) 点滴の急速滴下に関する事例から、経験の有無に関係なく、ポンプ使用の必要性を判断できるよう「輸液ポンプ使用基準」を作成した。 (23) 見守りの必要な患者の入浴介助に関する事例から、介助方法等について徹底するため指導を行った。 (24) カンガルーポンプ使用時の設定に関する事例から、勉強会を開催するとともにCEセンサー点検時に全ての設定をリセットすることとした。 (25) 手術終了時におおい布を剥がすと同時に皮膚の一部が剥離した事例から、皮膚の状態や貼与時間を考慮し、また専用リムーバを使用することとした。 (26) 化学療法点滴流量変更忘れの事例から、流量変更の実施有無が分かるよう「流量変更カード」を作成した。 (27) 浴室ストレッチャーの操作に関する事例から、RCA分析で根本原因を抽出し、また操作方法の学習会を実施した。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・無
・所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (7) 名 ・活動の主な内容： (1) 医療の質の向上及び安全に関する事項 (2) インシデントレポート等に関する調査・分析 (3) 医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知 (4) 医療調査委員会開催の判断 (5) 院内各部署における医療安全管理状況の点検 (6) 医療の安全性に係る教育および研修 (7) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知 (8) 医療事故防止対策マニュアルの見直し (9) 医療安全に関する院外への情報提供 (10) その他医療安全に関する事項	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染対策に関する基本的な考え方・組織的な取組み院内感染対策のための職員研修に対する基本方針感染症発生状況の報告に関する基本方針院内感染発生時の対応に関する基本方針患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針その他の当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年30回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染の予防に関すること院内感染の情報収集に関すること感染源の追求等のための検査実施に関すること防疫対策の確立に関することHIV感染症の医療体制に関することその他、院内感染対策についての重要事項に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年13回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">初任者研修オリエンテーション（講義）手指衛生・PPE着脱演習院内感染対策に係る講演会感染性胃腸炎対策演習	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">微生物検査室と連携し微生物の新規検出状況を毎日把握しており、当該検出部署の感染対策マネージャーに連絡を行い感染予防策の実施について確認している。また、アウトブレイクが疑われる場合は菌腫の遺伝子検査を実施し、同一菌腫による発症症例が多数の場合は病院長に報告するとともに、保健所に報告する体制が構築されている。感染制御部における「適正な手指衛生・個人防護具の着用演習」について、新規採用職員、中途採用職員など病院職員全体に実施している。また、教育対象を外注職員に拡大するなど院内の感染対策に努めている。擦式手指消毒剤・手洗い石鹸の消費状況を院内に周知するとともに、「適切な手指衛生・個人防護具着用の推進」に係る通知やポスターの作成を行い手指衛生の推進を図っている。医師、看護師、薬剤師などのICTメンバーによる感染制御チームを設置し、1週間に4回以上院内ラウンドを実施し、各種の予防策の実施状況やその効果等の評価を行った。感染制御チームのラウンドのほかに、感染対策リンクナースとともに各部署の「感染対策オーディット」を行い、感染対策実施状況のチェックと指導を行っている。抗菌薬ラウンドを実施し、抗MRSA薬・カルバペネム薬の監視体制の強化を図った。	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 初任者研修 (対象：看護師・研修医) H22. 4. 2, H22. 4. 7 計117名</p> <p>(2) 新規採用医師並びに看護師の中途採用者の教育 79名</p> <p>(3) 医療安全に関する講演会 H22. 10. 15 164名</p> <p>(4) その他の研修会</p> <p>① 第1回事例検討会 (インシデント分析、防止策立案) H22. 8. 25 85名</p> <p>② 救急セミナー (救急カートの効果的使用方法) H22. 11. 26 178名</p> <p>③ 各部門での安全への取り組み (報告会・ポスターセッション) H22. 12. 1-2 延べ944名</p> <p>④ 糖尿病セミナー (事例から考える糖尿病管理と介入の要点) H22. 12. 8, 12. 15 計158名</p> <p>⑤ 緩和セミナー (緩和ケア認定看護師による講習) H23. 1. 19, 1. 26 計220名</p> <p>⑥ 第2回事例検討会 (インシデント分析、防止策立案) H23. 2. 2 78名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>(1) 総則 (2) 医薬品の採用 (3) 医薬品の購入・管理 (4) 薬剤部における医薬品の管理</p> <p>(5) 病棟・各部門への医薬品の供給 (6) 外来患者への医薬品使用</p> <p>(7) 入院患者への医薬品使用 (8) 麻薬管理 (9) 院内製剤 (10) 他施設との連携</p> <p>(11) 医療事故防止および発生時の対応 (12) 教育・研修</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療機器安全性情報</p> <p>(2) 日本製薬団体連合会：Drug Safety Update</p> <p>(3) 各メーカー・卸からの回収情報等の収集</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年10回程度
・ 研修の主な内容： 定期研修 (1) ME機器セミナー（医療機器(シリンジポンプ、輸液ポンプ等)の安全使用の為の知識技術の習得) (2) 出張研修（シリンジポンプ、輸液ポンプ・カンガルーポンプの使用法と注意点） (3) 講習会（医療機器(心電図モニター)の安全使用の為の知識・技術の習得) (4) ME機器セミナー(人工呼吸器の安全使用手順の習得) (5) e-ラーニングで学ぶ医療安全(ME機器(人工呼吸器、輸液ポンプ・シリンジポンプ)に関する医療安全の重要ポイントの習得) 新しい医療機器の導入時の研修 麻酔器に関する取り扱い説明会 人工心肺回路に関する説明会 内視鏡装置に関する説明会	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有)・無) ・ 保守点検の主な内容： (1) シリンジポンプ、輸液ポンプ及び経腸栄養ポンプは中央管理による日常点検及び定期点検 (2) 人工呼吸器は始業点検、使用中点検、終業点検及びメーカーによる定期点検 (3) 血液浄化装置は始業点検及びメーカーによる定期点検 (4) 除細動器は点検器具を用いた臨床工学技士による定期点検 (5) 人工心肺装置及び補助循環装置は始業点検及びメーカーによる定期点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 情報収集の方法 ① 医療機器に関する情報提供のホームページを活用 ② 医薬品医療機器情報配信サービス(PMDAメディナビ)の登録 ③ メーカー主催のメンテナンス講習会への参加 ④ 医療機器に関連する学会への参加 ⑤ メーカー担当者からの報告及び情報の収集 (2) 情報の周知 ① 定期的な報告（医療機器安全使用に関する検討会の実施） ② 文書配付による通知 ③ メーカー担当者から関連部署への通知の依頼	